ごあいさつ

一般財団法人　再エネ協同基金
理事長　森　宏之

地域での再生可能エネルギーや省エネルギーを普及する事業をすすめ、自立分散型エネルギー社会の実現を目指し、もって持続可能な社会づくりと地域環境保全に寄与することを目的として2016年９月に創立された「当基金」もはや6年が経過しようとしています。

この間、新自由主義的成長が限界点に達し、地球環境や生物多様性などにますます深刻な影響が出ています。とりわけ世界の「気候異変」による災害、夏季においては摂氏40度を超える高温が日常化しつつあり、地球温暖化が眼前の現実となりました。昨今の電力逼迫の情勢は、わたしたち一人ひとりのライフスタイルを変えることも不可欠になってきました。「再エネ協同基金」の活動、つまり再エネ、省エネの活動は、ますます重要になってきました。わたしたち市民自らがこの間6年間の実践をさらにバージョンアップし、積み上げていくことが求められています。一層のご協力をお願いいたします。

和歌山大学客員教授　自然エネルギー市民の会代表
評議員長　和田　武

地球温暖化の進行は、熱暑、洪水、未知ウイルス感染症の蔓延等の災害をもたらします。また、海洋の酸性化や凍土地帯の融解等も始まりつつあり、これらの現象がさらに進展すると、回復不可能な不可逆的破壊を伴う危機をもたらします。そのことを予測し、予防するためのパリ協定に基づいて、21世紀半ばにはCO_2排出ゼロ社会を実現する必要があります。再生可能エネルギー普及と省エネを通じてCO_2削減を目指す再エネ協同基金の取り組みに、ご参加、ご協力いただければ幸いです。